

項目	内容
名称	ポリデキストロース [英]Polydextrose [学名]-
概要	<p>ポリデキストロースは、低分子の水溶性食物繊維であり、ブドウ糖、ソルビトールを9:1の割合でクエン酸と共に減圧下のもと熱処理すると得られる。</p>
法規・制度	<p>■ <b>食薬区分</b> 「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料) 」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料) 」にも該当しない。</p> <p>■ <b>特定保健用食品</b> ・ポリデキストロースを関与成分とし「おなかの調子を整える」保健用途が表示できる特定保健用食品が許可されている。 ・特定保健用食品 (規格基準型) としてのポリデキストロース (1日摂取目安量 : 7~8 g) の保健用途表示は「ポリデキストロースが含まれているのでおなかの調子を整えます」。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白色から淡黄褐色の非結晶性の粉末または塊 (101)。</li> <li>・融点&gt; 130°、10% (w/w) 溶液pH2.5~3.5 (102)。</li> <li>・においはなく、無味もしくはわずかな酸味がある (101)。</li> </ul>

分析法	・示差屈折計を装着したHPLCで分析した報告がある (101)。
有効性	
ヒ 循環器・ ト 呼吸器 での 評価	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空腹時の血中トリグリセリド濃度が120 mg/dL以上200 mg/dL未満の男女77名 (平均47.7±1.0歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、高脂肪食と共にポリデキストロース 5 g 含有紅茶飲料100 mLを単回摂取させたところ、摂取6時間後までのトリグリセリド濃度 (AUC) の低下が認められた (2015358738)。</li> </ul>
消化系・肝臓	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康な男女36名 (平均25.8±9.1歳、アメリカ) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、マフィンとシリアルからポリデキストロース20 g/日を10日間摂取させたところ、5日間の糞便重量と糞便回数、糞便湿重量の増加とpHの低下、形状の軟化、短鎖脂肪酸量の減少が認められたが、全腸通過時間に影響は認められなかった。また、胃腸耐性スコア7項目中2項目に改善が認められたが、総合評価に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:23427334</a>)。</li> <li>透析患者29名 (試験群16名、平均67.5±8.5歳、日本) を対象とした三重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ポリデキストロース10 g/日を4週間摂取させたところ、排便回数の増加が認められたが、糞便形状、腹部膨満感、血液検査の値に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:26440643</a>)。</li> </ul>
糖尿病・ 内分泌	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>糖代謝異常の男女66名 (フィンランド) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、ポリデキストロース (試験群22名、平均55±7歳) またはサトウダイコンペクチン (試験群22名、平均51±9歳) 8 g配合飲料200 mL/日を1週間、200 mL×2回/日を11週間摂取させたところ、体重、BMI、血圧、空腹時血糖値、B-GHbA1cおよび血中脂質に影響は認められなかった (<a href="#">PMID:16523204</a>)。</li> <li>糖尿病境界域者43名 (平均51.4±1.1歳、日本) を対象とした二重盲検クロスオーバー無作為化プラセボ対照試験において、米飯負荷食 (300 g) と共にポリデキストロース 5 g含有飲料100 mLを単回摂取させたところ、摂取2時間後までの血糖値 (AUC) 低下が認められたが、インスリン値に影響は認められなかった (2017065200)。</li> </ul>
生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・ 感覚器	<p><b>メタ分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2013年7月までを対象に9つのデータベースで検索できた無作為化プラセボ対照試験6報について検討したメタ分析において、朝食の一部としてのポリデキストロースの摂取は、昼食 (6報) のエネルギー摂取量の減少と関連が認められたが、夕食 (3報) や1日あたり (3報) のエネルギー摂取量との関連は認められなかった (<a href="#">PMID:25510531</a>)。</li> <li>2013年7月までを対象に9つのデータベースで検索できた無作為化プラセボ対照試験7報について検討したメタ分析において、ポリデキストロースの摂取は、食事での満足感 (6報) と関連が認められたが、食べ終わりから次の食事までの食欲 (6報) との関連は認められなかった (<a href="#">PMID:26784221</a>)。</li> </ul>
免疫・がん・ 炎症	<p><b>RCT</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アトピー性疾患の家族歴がある乳児345名 (イタリア) を対象とした二重盲検無作為化比較試験において、調製乳 (SF群104名)、プレバイオティクス (ガラクトオリ</li> </ul>

ゴ糖：ポリデキストロース（1：1）4.0 g/L）含有調製乳（PF群118名）または母乳（BF群123名）を生後48週齢まで摂取させたところ、PF群は、SF群と比較して、48週までの気道感染症の発症者数、96週までの再発者数の減少、48週までの気道感染症の平均回数、96週までの下気道喘鳴の減少が認められ、BF群と比較して、48週までの下痢頻度の減少が認められた ([PMID:29494489](#))。

骨・筋肉 調べた文献の中に見当たらない。

発育・成長 調べた文献の中に見当たらない。

肥満 調べた文献の中に見当たらない。

その他 調べた文献の中に見当たらない。

#### 参考文献

(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)  
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)  
[\(101\) 別添3 特定保健用食品（規格基準型）制度における規格基準](#)  
(102) The Merck index. 15th edition  
(2015358738) 薬理と治療. 2015;43(8):1149-56.  
(2017065200) 薬理と治療. 2016;91(3/4):61-7.  
[\(PMID:16523204\) Eur J Clin Nutr 2006;60\(9\):1073-80.](#)  
[\(PMID:23427334\) J Nutr 2013;143\(4\):473-8.](#)  
  
[\(PMID:25510531\) Appetite 2015;87:30-7.](#)  
[\(PMID:26440643\) J Nutr Sci Vitaminol. 2015;61\(4\):345-53.](#)  
[\(PMID:26784221\) Nutrients. 2016 Jan 14;8\(1\):45.](#)  
[\(PMID:29494489\) Nutrients. 2018 Mar 1;10\(3\):286.](#)